

日時：2020年11月16日（水）10～12時
会場：オンライン（zoom ウェビナー）
参加者：参加者28人

議事概要：

●議題1 第1回参加者による取組み提案の集約発表

第1回の本会議終了後に参加者よりご提案いただいた「学校教育における新しい取組み」について、事務局より紹介。

（提案内容）

- ① 教員の研修と、教員が興味を持って取り組んでくれるような仕組み作り
- ② 講師協力やイベント実施の連携による大阪城公園における生き物調査、いきもの観察会やふれあい体験会、生物多様性勉強会
- ③ 行政・企業・教育機関・市民等の連携をうみだす場づくりや情報交換の仕組み作り
- ④ 小学校、高校の授業での野外生物観察
- ⑤ 子供を引きつける手法を用いた教育活動や、幼稚園、小学校などに身近な生き物との触れ合いの場を創出
- ⑥ その他：鶴見緑地活動している以外の、大阪市内で活動している方々の発掘等

●テーマ提起「大阪市内の施設を利用したより多くの市民への生物多様性普及啓発活動」

大阪府立大学 平井 規夫教授より、大阪市内にある自然史博物館、天王寺動物園、海遊館などが取り組む生物多様性保全のための工夫を例示し、普及啓発活動時の具体的な工夫や言葉かけについて、実際に生き物を使ってご紹介いただき、今回のテーマを提起。

●議題2 パネリスト、コーディネーター紹介

事務局より、パネルディスカッション形式で進行する旨を説明し、パネリスト及びコーディネーターより自己紹介があった。

（コーディネーター）

鍋島 靖信（自然史博物館友の会）

（パネリスト）

岡本 晋弥（イタセンパラ保全市民ネットワーク）

桑原 香織（環境共育プログラム研究会（ネイチャーおおさか））

棚田 麻美（天王寺動物園）

（質疑応答）

【質問】天王寺動物園で、大阪市内の自然をテーマにした講座や観察会は実施しているか。

【回答】例年春に生物多様性をテーマにした企画展を実施している。環境局や生物多様性センターと連携しており、環境局で実施している小学校における生物調査結果の展示等している。動物園主催の講座や観察会は、今は実施していない。

●議題3 パネルディスカッション「大阪市の施設を利用した、より多くの市民への生物多様性普及啓発活動」

事前に収録したパネルディスカッションについて、動画で共有。

【テーマ1】子どもの頃の大阪の自然

泉北ニュータウン、城北ワンド、能勢妙見山 初谷溪谷、金剛山 紀見峠、大阪府立総合青少年野外活動センター、大浜海水浴場などが挙げられた。写真を交えて紹介。

【テーマ2】大阪市内で生物多様性を感じられる場所

長居公園、大阪ふれあいの水辺、淀川、矢倉緑地などが挙げられた。写真を交えて紹介。

【テーマ3】生物多様性を伝える工夫

- ・ 自分が一番心に残ったことを話す
- ・ 動物園の動物と身近な生きもの（ダンゴムシやカタツムリ）を比較
- ・ 五感（触る、見る、匂い嗅ぐなど）を使うことを意識する声かけ
- ・ 記憶の定着、家族への話題提供を狙ったイベントでの土産物（自然物を使ったクラフトなど）
- ・ 子どもの興味に沿った多様な要素のプログラム（勉強、歌、工作など）

- ・ 本から得た知識よりも遊びながらの体験による知識
- ・ 生活する力を付けさせる教育
- ・ 自分が楽しんで伝える
- ・ 知識を詰め込むよりも楽しんで得た1つの知識

【テーマ4】若い人に活動に来てもらうには？

- ・ 新しい見方、気づきを与える一言
- ・ 子どもの頃自然での楽しかった経験が、大人になって自然や生きものを選択させる
- ・ 中学校の生物クラブ活動を受け持つ
- ・ 誰もが忙しい社会が自然と関わる時間を奪っている
- ・ 若い人の写真を載せて広報に使う
- ・ 一人ひとり声をかけて仲良くなる
- ・ 敷居高いと思わず飛び込むことが大事

【テーマ5】行政と連携した生物多様性啓発

- ・ 大阪湾見守りネットや大阪市区民センターが連携している取組み事例がある。
- ・ 市民の活動に行政が協働すれば、今の取組みの倍の効果があるはず。
- ・ 行政職員の生物多様性に関する専門員の配置できれば、より取組みやすくなると思う。

【テーマ6】大阪市の施設の有効活用

- ・ 野鳥園臨港緑地や万博公園など、みんなで使っていく。例えば小学生見学必須施設にする。
- ・ 例えばいろんな団体の企画を一覧にしたチラシを大阪市のHPに載せる。
- ・ 天王寺動物園は広報力が強いので、団体や事業者等との共催や場所の提供などを通じて、効果的な啓発等が可能である。

【テーマ7】30年後の活動を見据えて

- ・ 若い人が入って来て活動が続いていく仕組み作りが必要。
- ・ 幼児とその親に自然を伝える親子イベントは重要。
- ・ 発信する事で、ぼんやりと環境について意識を持っている人の行動を変える。
- ・ 押し付けがましさをなく、自然体験の楽しさを日常に取り戻そうと伝える。
- ・ 子ども達に自然体験の楽しさを伝えること、社会がゆとりを持つこと。
- ・ 自然に興味を持つ子を受け入れる場を継続的に保つこと。

(質疑応答)

【質問】漁業体験を企画したいと考えているが、実施事例はあるか。

【回答】以前は堺市で実施していたが、今はやっていない。大事な体験だと思うので、取組みについて行政に理解してもらうことも必要だと考えている。野鳥園臨港緑地も市民の要望により継続が決まった。(鍋島)。

【質問】コロナ禍の今、五感に絞った活動の工夫はあるか。

【回答】

- ・ 活動時には、家族単位の班構成で道具類は家族単位で準備する。自然物は手渡さず参加者自ら拾う。(桑原)
- ・ 8月より抽選による人数制限をし、間隔を空けるなど留意をして観察会を実施。生物の観察時も集まらず各席で行い、説明はミニホワイトボードを持って回る。(鍋島)
- ・ 基準を設けて注意喚起を行い、感染者数が増えた場合にはイベントを中止する。(岡本)
- ・ 学校団体受入れ時のプログラムの一部をオンラインで実施。持ち帰った標本を触りながら体験もできるようにした。毎年夏休み期間に実施しているサマースクールをオンラインに変更したが、参加証は来園し受け取っていただくこととし、コロナ禍が落ち着いた後に楽しめる工夫をしている。(棚田)

【質問】生き物への興味は入口として重要だが、そこに留まらず生物多様性にフォーカスした工夫や言葉かけはあるか。

【回答】

- ・ イベント終了時の振り返りで、参加者の感想から視点を広げるような言葉かけを行う。(桑原)
- ・ 保全重要種だけでなく、淀川の様々な動植物の写真をブログに掲載している。(岡本)
- ・ 動物の餌となる園内の植物の説明も行い、生き物のつながりを意識してもらう。動物の個体ごとの個性(好みや癖)から、人間も含めた生物の多様性を意識化できる説明を心がけている。(棚田)

【質問】コロナ禍の配慮としての分散という意味で、標本等を用いた出前講座というのは可能か。

【回答】

- ・ イタセンパラは天然記念物のため、移動には文化庁への許可が必要で難しい。（岡本）
- ・ 自然史博物館、天王寺動物園、環境教育プログラムの出前は可能（鍋島、棚田、桑原）

●参加者アンケート 新しい活動や連携の提案「大阪市の施設を利用した、より多くの市民への生物多様性普及啓発活動」（参加者アンケート）

会議終了後に参加者に回答いただき、第3回の本会議実施時に結果を取りまとめてご報告する旨を説明。

●次回案内

- ・ 第3回生物多様性の保全に向けたネットワーク会議の予定：2021年2月19日（金）午前10時から（開催：オンラインにて実施予定）